

上羽家文書目録

【史料概要】

宇土藩士・上羽家に伝来した文書群。「上羽家先祖一通附書」(目録番号27)などによると、初代・上羽丹波は丹後国倉橋村の茶臼山という山城の地侍で、天正8年(1580)に細川藤孝・忠興親子が信長から丹後国を拝領すると、上羽丹波は細川家に奉公することとなった。上羽丹波には、作右衛門・吉右衛門・小右衛門という3人の息子がいたが、吉右衛門は朝鮮在陣中に戦死、作右衛門は病身のため奉公を断り、小右衛門(重勝)が上羽家を継いだ。小右衛門は慶長5年の田辺城籠城戦でも高名を挙げた。小右衛門の子・又右衛門(重一)は長岡休斎附の家臣となるが、後に細川立孝附の家臣となり、有馬陣で高名を挙げ300石を拝領した。立孝の子・行孝を初代藩主とする宇土藩が成立すると又右衛門もそのまま宇土藩士となり、藩政初期には奉行役や家老など要職を務めた。その後、新兵衛重時、団之助重方、小右衛門経中、又右衛門経直、又右衛門重共、牛蔵重涉と続き、次の又重の代に維新を迎えた。上羽家は代々藩の要職を務めていたが、当該文書群には藩政に関わるものは皆無で、知行宛行状のほか私的な文書がほとんどを占める。なお、本目録の史料番号は当該文書の受け入れ時に付された史料番号を踏襲した。

史料番号	年月日	史料名	作成者	宛先	内容
1	承応2年正月	知行方目録	(細川行孝)	上羽又右衛門	益城郡長村に100石遣わす
2-1	承応2年正月	細川行孝知行宛行状	帯刀行孝(細川行孝)	上羽又右衛門	100石加増し、先知と合わせて400石遣わす
2-2	寛文6年9月	細川行孝知行宛行状	丹後行孝(細川行孝)	上羽新五左衛門	益城郡榎津村・入生宮村、宇土郡鶴見塚村に150石遣わす
2-3	寛文12年7月	細川行孝知行宛行状	丹後行孝(細川行孝)	上羽又右衛門	益城郡碓村に100石加増し、先知と合わせて500石遣わす
3	寛文6年9月	知行方目録	(細川行孝)	上羽新五左衛門	No.2-2の知行方目録
4-1	延宝4年10月	知行方目録	(細川行孝)	上羽与市左衛門	No.4-2の知行方目録
4-2	延宝4年10月	細川行孝知行宛行状	丹後行孝(細川行孝)	上羽与市左衛門	益城郡碓村・永村・入(生)宮村に200石遣わす
5		包紙			ウハ書「文政十一子十月朔日 之寿公方被為頂戴候御判物 上羽又右衛門重共」
5-1		包紙			ウハ書「御判物 上羽又右衛門代二、上羽小右衛門、上羽左次馬」
5-2	文政6年9月9日	包紙	上羽牛蔵		ウハ書「尾張・肥後右両所倉橋又四郎様御頂之御書出、三宮社人吉見姓方請之 上羽牛蔵重涉 于時文政六年九月九日」
5-3		包紙			ウハ書「明治二年巳七月」

史料番号	年月日	史料名	作成者	宛先	内容
5-4	文政6年9月9日	(書付)	上羽牛蔵		ウハ書「尾張・肥後右両所倉橋又四郎様御頂之御書出、三宮社人吉見姓方請之 上羽牛蔵 于時文政六未年九月九日」
5-5		懸紙			ウハ書「上羽覚右衛門殿」 No.5-5-1の懸紙
5-5-1	延宝7年1月10日	知行分之事(知行方目録)	成隼人(成瀬正親)	上羽覚右衛門	春日井郡豊場村・西之嶋村・足振村に250石遣わす
6	宝暦5年2月	細川興文知行宛行状	豊前興文(細川興文)	上羽小右衛門	下益城郡内に200石遣わす
7		包紙			ウハ書「安永三甲午年十一月十五日頂戴 御書出 上羽又右衛門」
7-1		懸紙			ウハ書「上羽又右衛門殿」
7-2	安永3年8月	細川立礼知行宛行状	和泉立礼(細川立礼)	上羽又右衛門	下益城郡内に200石遣わす
8		包紙			ウハ書「天明二壬寅年十月九日為御加増五拾石被為拝領候御判物 天明四甲辰年二月廿三日頂戴仕候事」
8-1		懸紙			ウハ書「上羽又右衛門殿」
8-2	天明2年10月	細川立礼知行宛行状	和泉立礼(細川立礼)	上羽又右衛門	下益城郡内に50石加増し、先知と合わせて250石遣わす
9		包紙			ウハ書「享和二年戌十一月朔日頂戴上羽左次馬」
9-1		懸紙			ウハ書「上羽左次馬殿」
9-2	享和2年8月	細川立之知行宛行状	和泉立之(細川立之)	上羽左次馬	下益城郡内に250石遣わす
10		包紙			ウハ書「御判物」
10-1		包紙			ウハ書「文政三庚辰十月十日頂戴御判物 上羽又右衛門」
10-2		懸紙			ウハ書「上羽又右衛門殿」
10-3	文政3年8月	細川立政知行宛行状	中務立政(細川立政)	上羽又右衛門	下益城郡内に250石遣わす

史料番号	年月日	史料名	作成者	宛先	内容
11		包紙			ウハ書「御書出三通 御知行目録二通」
11-1		包紙			ウハ書「御書出三通 御知行目録二通」
11-2		懸紙			ウハ書「上羽又右衛門殿」
11-3	文政11年8月	細川之壽知行宛行状	中務之壽(細川之壽)	上羽又右衛門	下益城郡内に250石遣わす
12		包紙			ウハ書「天保四癸巳年正月十一日為御加増五拾石被為拝領候御判物 上羽又右衛門重共」
12-1		懸紙			ウハ書「上羽又右衛門殿」
12-2	天保4年正月	細川之壽知行宛行状	中務之壽(細川之壽)	上羽又右衛門	下益城郡内に50石加増し、先知と合わせて300石遣わす
13	嘉永5年8月	細川立則知行宛行状	山城立則(細川立則)	上羽牛蔵	下益城郡内に300石遣わす
14		包紙			ウハ書「文久二年戌十一月朔日頂戴之 上羽又十郎重親」
14-1		懸紙			ウハ書「上羽又十郎殿」
14-2	文久2年8月	細川行真知行宛行状	主米輔行真(細川行真)	上羽又十郎	下益城郡内に300石遣わす
15-1~5		(上羽家過去帳)			上羽如庵勝重(明暦3年死去)から上羽又右衛門重共(弘化4年死去)まで
16		書付「義弘 正宗歟」			包紙ウハ書「つき小袖 長サ壹尺七寸」
17	明治28年2月2日	封筒	熊本妙体寺町 上羽重一	宇土郡轟村 上羽又重	封筒のみ。つき小袖鑑定の件
18		包紙「上羽家御代々法号」			No.15の包紙カ
19		包紙			包紙付札「つき小袖鑑定脇差付属鑑定及小札共二三枚 上羽重人」
19-1	明治28年1月19日	(つき小袖鑑定書)「義弘ノ門人 為継」	大沼陸軍少将		
19-2	(明治28年)1月30日	書簡	上羽重一	父上	つき小袖鑑定の件

史料番号	年月日	史料名	作成者	宛先	内容
20		上羽家由緒書(上羽家歴代の法号)			封筒入り。封筒ウハ書「上羽家由緒書最モ必要ナルモノナリ」
21		上羽家神霊			上羽勝重(明暦3年死去)から上羽重一(明治30年死去)まで
22		歌三首			
23		歌一首	上羽又重		
24		宇土墓所の見取り図			
24-1		封筒			封筒表面ペン書「宇土墓所みとり画入り」
25		墓石正面図			上羽重共、重共の妻、上羽三入と妻(夫婦で1基)の3基
26		宇土墓所の見取り図			
27	安政7年正月	上羽家先祖一通附書	上羽又十郎		奥書「于時安政七庚申年正月日相州三浦郡公卿ノ堀之内於陣営再写之物也 上羽又十郎重親謹而書」
28	正保2年12月	言上之扣(丹羽亀之丞覚書写)			文化2年5月上羽直寛写
29	明治26年	上羽家先祖書 明治二六年迄之年数表	上羽又重		
30	文化3年5月	七足変唄切紙	日景篤	上羽左次馬	
31		妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二五偈文			明治20年12月15日清写
32	明治9年8月8日	先祖代々神霊			上羽丹波から上羽重人(大正12年死去)まで
33	宝永元年	上羽又兵衛由緒書			奥書「宝永元甲申年之冬誌之畢」
34	明治カ	和歌草稿			
35	嘉永6年2月	剣術相伝書	上羽左次馬		前欠
36	文化14年5月	心覚頭書写	上羽直寛		「御内密御咄申候義御心覚頭書仕候条々」(河嶋七右衛門筆)や「代々奥方知行并御合力被下置候覚」を上羽直寛が書写したもの

史料番号	年月日	史料名	作成者	宛先	内容
36-1		書付			我父のみかわりけるを正弼君の方方悼み給ひ」云々
37	寛文6年	資慶卿口授			奥書「上羽重共写之」
38		幽齋公御詠歌			
39		御系図(源氏細川御系図)			
40		和歌会始・治世或問・紫式部辞世の歌・石平道人示武士			
41		藩譜採要三			
42		藩譜採要四			
43		藩譜採要五			
44		藩譜採要六			
45	文化2年	消息文例 下巻			版本
46	(寛永15年)3月4日	細川立允書状	立允(細川立孝)	休齋(細川孝之)	卷子装 「一揆之城去月廿七日方せめ廿八日おち申候」云々
47		李白漢詩			卷子装
48		山水図			掛幅装
49	明治22年6月	月夜梅図	吉永千秋		掛幅装
50		細川行真礼状	細川行真	上羽家令・森野家使	掛幅装。2通合装
51		牡丹絵(二幅対の一)	探龍		掛幅装
52		牡丹絵(二幅対の二)	探龍		掛幅装
53		牡丹御懸物入箱			No.51・52を収納する木箱
54	(年不詳)7月3日	明智光秀書状	惟任日向守光秀	上羽丹波守	与保呂郷のこと
55		荀子 卷第七～第十			版本
56	明治24年	規則抜萃	上羽陸軍属		陸軍の会計規則
57		大匠雛形 卷四			表紙に「古々路能杖(こころの杖)」と墨書あり

史料番号	年月日	史料名	作成者	宛先	内容
58		断簡七片			
59		漢詩			布地に墨書
60	明治中期	学術技芸二係ル履歴	上羽重一		上羽重一(安政4年生まれ)の履歴書 熊本陸軍経営部罫紙
61		写真3枚			先祖附や系図の部分写真